

2021年11月28日(日) 陸奥新報15面掲載

地震や津波を後世に

弘前大学
防災セミナー

原因や退避を提言

深浦

弘前大学深浦エコサテラ
イトキャンパス2021年
度第1回公開講座(深浦町、
弘大など主催)が18日、同
町の町民文化ホールで開か
れ、弘大大学院理工学研究
科の片岡俊一教授が「防災
セミナー」(地震と津波に
備える」と題して講演。1
983年5月に発生した日
本海中部地震を例に、地震
や津波が発生する原因や退
避に役立つ知識を紹介し

た。
弘大が有する知見を提供
する公開講座は今回、日本
海側における地震に関する
情報や知見が少ない中、日
本海中部地震を例に、地震
に対する記憶を風化させま
いと開いた。

片岡教授は地震・津波発
生の状況や原因、発生が少
ないとされる日本海側で被
害を伴う地震が江戸時代以
降に複数回起きていること
を解説。今後に向けて①被
害を引き起こす地震が起こ



らないとは限らない②地震
が起きたら津波を考え、高
たほか、「思い出す、伝
承する仕組みを用意する」よ
う提言。「後
世に(地震の
記憶)伝え
ることが大
事。写真を見
せただけでも
記憶に残るの
ではないか」
と語った。
(下山高秋)

日本海中部
地震について解
説し、今後に
向けて提言す
る片岡教授

※この画像は当該ページに限って

陸奥新報社が利用を許諾したものです。

[問合せ先]弘前大学理工学研究科

E-mail:r_koho@hirosaki-u.ac.jp